**第20課　エルサレム聖殿の再建 2018.5.20**

◎ 賛美(一同) : 聖歌118番(韓日55番)、韓日542番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条　◎ 御言葉朗読(一同) : エズラ6章13∼15節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 一番最後に

◎ 今日のマナ

帰還共同体は聖殿再建過程の間、多くの苦しみを受けましたが、神様の助けによって聖殿を完工することが出来ました。エルサレム聖殿の再建はユダの民だけでなく今日を生きる私たちキリスト者にも大きな意味を持っています。

**1. エルサレム聖殿の再建**

聖殿再建工事は預言者ハガイとゼカリヤ、総督ゼルバベル、祭司長ヨシュアの強い動機付与と推進力によって再開されました。しかしユダの人々の影響力が大きくなることを警戒したユーフラテス川の西側地域の総督タテナイとシェタル・ボズナイが聖殿再建を妨害しました。彼らは聖殿の再建がはたして合法的なものであるのかを調べようと、ダリヨス王に手紙を送りました(ゼカリヤ5：3～5)。それを受けたダリヨス王は過去に前の王がユダヤ人たちにエルサレム聖殿の再建を許可した記録があるのかを家来たちに調べさせました。するとバビロンの文書保管書から十数年前に公布されたクロス王の記録が見つかりました。この記録には再建の許可はもちろんのこと、その経費を王室から支払い、また過去にバビロンが収奪した聖殿の器具を返還するようにという内容まで含まれていました(エズラ6：1～5)。

これを見たダリヨス王は、タテナイとシェタル・ボズナイに、クロス王の書状に従ってユダヤ人の聖殿再建工事を妨害することをやめ、全面的に支援することを命じました(エズラ6：6～12)。タテナイとシェタル・ボズナイは、自分の悪企みに自分自身がかかって倒れてしまったのです。結局、聖殿工事は神様の御心の中で多くの指導者達のリーダーシップとペルシヤの王たちの配慮と共に、‘良く’進み、ダリヨス王の第6年、すなわち再建工事が始まって22年の年に完成しました。

“ユダヤ人の長老たちは、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの預言によって、これを建てて成功した。彼らはイスラエルの神の命令により、また、クロスと、ダリヨスと、ペルシヤの王アルタシャスタの命令によって、これを建て終えた。こうして、この宮はダリヨス王の治世の第六年、アダルの月の三日に完成した。”(エズラ6:14∼15)

聖殿再建工事は22年という長い期間の間、多くの苦しみの中で進められました。サマリヤ人たちと周囲の異邦人たちの妨害などの外的な要因、ユダヤ人たち自らの意欲の低下と建築のための物質の不足などの内的な要因、そして大帝国ペルシヤの植民統治という不可避な制約の中で聖殿再建は夢のような事だったかもしれません。しかし、神様はこのような全ての不利な条件を一つ一つ解決して下さり、ユダの民たちはついに、エルサレム聖殿を再建することが出来ました。不可能を可能にされる神様が働かれたゆえに、可能でありました。私たちもまた

様々な形で神様の事を行うときがあります。そして多くの場合、私たちを取り囲む状況は‘その事を成し遂げることは不可能だ’と叫んでくるかもしれません。しかし私たちが覚えておかなくてはいけないことは、神様は‘不可能を可能にされるお方’、‘絶対的絶望を絶対的希望へと変えられるお方’という事実です。神様は奇跡を行われるお方です。わたしたちが行う事がまことに主が望まれる事であるなら、神様は必ず道を開き、事を成させてくださいます。

**2. 聖殿再建の持つ意味**

エルサレム聖殿再建はイスラエルの歴史だけでなく、今日の私たちにも重大な意味を持っています。聖殿再建が持つ二つの意味を見ていきたいと思います。

一番目に、エルサレム聖殿再建は神様の約束の成就であるゆえに大きな意味を持っています。神様はイスラエルが滅亡してしまったけれども、後に必ず彼らを故郷の地に帰らせて下さり、エルサレム聖殿を再建させて下さると仰りました。

 “イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「わたしが彼らの捕われ人を帰らせるとき、彼らは再び次のことばを、ユダの国とその町々で語ろう。『義の住みか、聖なる山よ。主があなたを祝福されるように。』”(エレミヤ31:23) 神様の約束の御言葉は結局成し遂げられ、エルサレムはもう一度神様の民が集まり神様を礼拝する聖なる場所になりました。私たちはこれを通して、神様は決して失言なさることなく、必ず約束を成して下さる真実なお方であるということを確認することが出来ます。そしてこの神様がまさしく今、私たちが信じている神様であられます。神様はイスラエルになされたように、今日私たちにも約束の御言葉を下さり、それを必ず成してくださるのです。

神様がなされた約束の御言葉の中でも、イエス様の再び来られることと永遠のいのち、天の御国は、私たちが必ず待ち望まなくてはいけないし、間違いなく成就する約束です。私たちはエルサレム聖殿が再建されたように、永遠のいのちと天国の約束も必ず成就することを信じなくてはいけません。イスラエルの民がそれほどまでに夢見ていたエルサレム聖殿をもう一度目で見て手で触ったように、私たちもまた天国の新しいエルサレムを目で見て手で触るようになるのです。真実なる神様が備えておられる天の住まいを見上げ、今日も礼拝者の道を歩かなくてはいけません。

二番目に、エルサレム聖殿再建は、再び礼拝共同体を立ち上げるきっかけとなったゆえに、重大な意味を持っています。異邦の地で長い間自由に神様を礼拝することの出来なかったユダヤ人たちはエルサレム聖殿が再建されることで存分に神様を礼拝することが出来るようになりました。聖殿で捧げられた礼拝と共に、彼らは神様を喜び、一つとなることを図ることができました(エズラ 6:19∼22).

旧約時代のユダの民が目に見える聖殿の中で連合し、神様を礼拝したならば、今日の私たちはイエスキリストの中で一つの共同体となり神様を礼拝することが出来ます。エルサレム聖殿再建を通して、礼拝の回復がユダの民にとって絶対的に重大な事であったように、私たちもイエス様の中で神様を礼拝するようになったことは私たちの人生の中で一番意味のある出来事です。

イエスキリストによって神様を礼拝するようになったこと、そして共に礼拝する尊い共同体を下さったことについて感謝します。いつも礼拝中心の人生、教会中心の人生を生きましょう。

**◎マナの要約**

<エルサレム聖殿の完工>

1.聖殿再建工事はタテナイとシェタル・ボズナイの妨害によって再び困難に陥ります。

2.しかし主の恵みで聖殿建築は行われ、工事を始めて22年ぶりに完工しました。

3.多くの悪条件の中でもエルサレム聖殿を再建された神様は、不可能を可能にされる神様です。

<聖殿再建が持つ意味>

1. エルサレム聖殿再建は神様の約束の成就です。

2. 神様はエルサレム聖殿再建の約束を成されたように、天国の新しいエルサレムの約束も成されます。

3. エルサレム聖殿再建は再び礼拝共同体を立ち上げるきっかけになりました。

4. イエスキリストの中で一つの共同体をなし、神様を礼拝しているという事実に感謝しましょう。

<隣の人と挨拶>

1. 神様は不可能を可能にされます。　2. 神様は約束を成就されます。

3. 共に礼拝が捧げられ嬉しいです。

<祈り>

1. 不可能を可能にされる神様を頼るようにして下さいと祈りましょう。

2. 天国を望みとし、礼拝者の道を進み行くようにしてくださいと祈りましょう。.

3. イエスキリストの中で共に集まり礼拝を捧げるようにして下さったことに感謝の祈りを捧げましょう。

<とりなしの祈り>隣の人と祈りの課題を分かち合い祈りましょう。